

令和 6 年 6 月 4 日

浜田市議会議長 様

議員名 村武 まゆみ

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先 新宿せいがこども園 視察
浦和大学林大介准教授面談
2. 視察事項
 - ①子どもの主体性を伸ばす幼児教育の施策の検討にあたり、新宿せいがこども園の保育の状況を学ぶ。
 - ②子どもの権利条例を進める施策の検討にあたり、推進体制などについて学ぶ。
3. 視察の目的（市政との関連など）
 - ①新宿せいがこども園視察において、子どもの主体性を伸ばす保育の現状を調査研究する。
 - ②浦和大学林大介准教授から子どもの権利について話を伺い調査研究する。
4. 期間（移動日を含む）
令和 6 年 5 月 21 日（火） ～ 令和 6 年 5 月 23 日（木）
5. 経費 40,464 円
（経費内訳 旅費 40,464 円）
6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など
 - ①保育士が子ども一人一人の能力を理解し、その子に合った保育を展開している。
浜田市でも保育の質の向上を提案していく。
 - ②子どもの権利について、他自治体の事例を聞き、浜田市において子どもの権利についての施策を提案していく。
7. 視察内容
（詳細は別紙のとおり）



1. 新宿せいがこども園

0歳児ちっち組 21人、1歳児ぐんぐん組 30人、2歳児にこにこ組 30人
3歳児わいわい組 32人、4歳児らんらん組 32人、5歳児すいすい組 32人
合計 177人

- 異年齢保育：0,1歳児、2歳児、3～5歳児
個別最適な学び、その子に沿った学びができる環境。異年齢だと子ども同士で学び合う。保育士同士の支え合い。
- 見守る保育：日頃から保育士が一人一人の子どもの能力を理解し、子どもへの声かけをしている。「あれをしたらダメ」などの保育士の声はない。
子ども達から助けて欲しいことなどがある時に保育士に声をかける。決して放任ではなく、保育士は子ども達のことをきちんと見ている。
- 外遊びや園内での遊びの選択を子どもがする。園内の遊びも各自がしたいことを選択し遊ぶ。遊びを選択したり遊びが広がりやすいように、ゾーンを作り、本や遊べる道具が、子ども達が見やすいような環境作りをしている。
子どもの選択する力を大切にしている。子ども同士がルールを作る。
- 喧嘩をした時には保育士がすぐに仲裁に入るのではなく、ピーステーブルで少し冷静になり子ども同士で話し合う。自分たちで解決する力を育む。
- 園の中のすべての「こと」や「もの」に理由があり、「これはこうだからです」という答えが必ず帰ってくる。



【所感】

視察中に保育士が園児に向けて、指示や叱る声などはほぼ聞くことがなかった。それだけ子どもの主体性を尊重しているということだと感じた。保育士が園児一人ひとりに目を向けており、子どもを放任しているのではないことがわかった。

子ども達は主体性を持ち、行動したり、意見を言ったりしている。これからの社会において、特にこのような保育の必要性を強く感じた。



2. 浦和大学林大介准教授との面談

- 年々「子どもの権利」関係の条例を策定したり準備をしている自治体が増えている。作り方は自治体それぞれだが、首長や担当職員の熱意によって差が出る。
- 何から取り組んだら良いかわからない自治体では職員などの研修が必要。それは子ども関係の担当部署だけでなく、「子どもの権利」については子ども関係だけでなく様々な部署の職員も理解する必要がある。
- 市民について、大人も子どもも「子どもの権利」についての理解を進める必要がある。学校での学習などで進めることができれば良い。

【所感】

全国的に子どもの権利についての関心が高まっていることを再認識した。今後浜田市においても子どもの権利についての施策を進めていく必要性がある。

市長や執行部、市民に理解されるよう進めていきたい。